慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	補修 會津白虎隊十九士傳(宗川虎次著, 山川健次郎補修)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.3 (1929. 11) ,p.180(502)- 180(502)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19291100-0181

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ふ。（巢鴨宮下神道攻究會會費月一圓五十錢）（淺子勝二郎）

雜誌「鄉土」

長野縣上伊那郡伊那富小學校に教鞭を執らるゝ諸氏に依つて鄉土研究が續けられ、その立派な成果が毎號の「鄉土」として發行せらるゝことは、寔に世人の注目に價する所である。抑も、鄉土研究は近來俄かに擡頭し來來つた學界の一傾向であつて、本誌も亦、斯かる氣運に促がされた結果であることはいふまでもない。學問は、遠くロシヤやドイツにその鑛臺を求めなくても、研究すべき材料は實はすぐ足許にある。藝術的陶醉もよし、哲學的思索も亦可なりである。けれども、我等が生れ、育ち來つた鄉土そのものの本體を知ることは、一層緊要なことであつて、それは同時に鄉土人の任務であるとは、少くとも本誌同人諸氏の主張の一部分であらう。「鄉土」がその目的を達する爲に、考古學・民間傳承學・人文地理學・地質學などの諸方面の方法を借り來つたのは當然であつて、各方面の研究者が、是等の學問に對する深い理解を、遺憾なく活用してゐらるゝ點に敬意を表せざるを得ない。以て天下に訴ふべき研究も二三に止まらない。祖先の遺した懷かしい傳承の固定されてゐるのもうれしい。純然たる歷史研究もある。斯くて卷を重ね號を追つて遂に目的は達せらるべきである。多くの學術雜誌が經營困難に陷つてゐる時期である。謄寫を活版にすることは望み難からうが、篤志の人を見つけて既刊の分だけでも一括して固定せられんことを希望する。妄評を敢てした。されど寬大なる同人諸氏はこれを恕されるであらう。（有賀春雄）

補修會津白虎隊十九士傳（宗川虎次著　山川健次郎補修）

著者宗川虎次氏の父君は、明治戊辰の役に、開城當時砲兵二番隊の隊長たり、また兄君は白虎隊に屬せざりしも、十七を最期として此の役に戰死せる勇士なりと本書に見える。著者が白虎隊十九士に、最も篤き同情を寄せらるゝも故なしとしない。此の十九士傳は、著者宗川氏が、明治十一年の頃より、遺族數家と、白虎隊生存者數氏とを歷訪して、「苟も十九士の關係より生ずる談話は、涙と共に聽き流すに忍びず、隨つて聽き隨つて筆し、十九士を網羅」したものである。一人々々の勇士に就き、その生立、爲人、逸話、奮戰振りなどを詳細に記し、讀者をして感激なき能はざらしめる。著者の如き人を得ざれば、そのまゝ葬られ去るべき性質の口碑を、暢達なる文章を以て整然と錄し上げ、十九士の俤を永く後世に傳ふべき、著者の功績は多大である。

附錄なる會津白虎隊のこと及び老人殉難者は、共に山川男の編述にかゝり、前者は飯盛山に自刄せる十九士以外の白虎隊士三十一人の最期、及び白虎隊に屬せざる十七歲以下十四歲以上の戰死者に就き詳細に記して、十九士傳を補ひ、後者は此の役の殉難者中、特に高齡を以て壯烈なる最期をなしたる者を錄するもの、同じく本書の附錄として載せられたる莊田三平氏の殉節婦人の事蹟と共に、眞に本書の附錄として相應しいものである。（有賀春雄）